

調査・予測・評価の方法

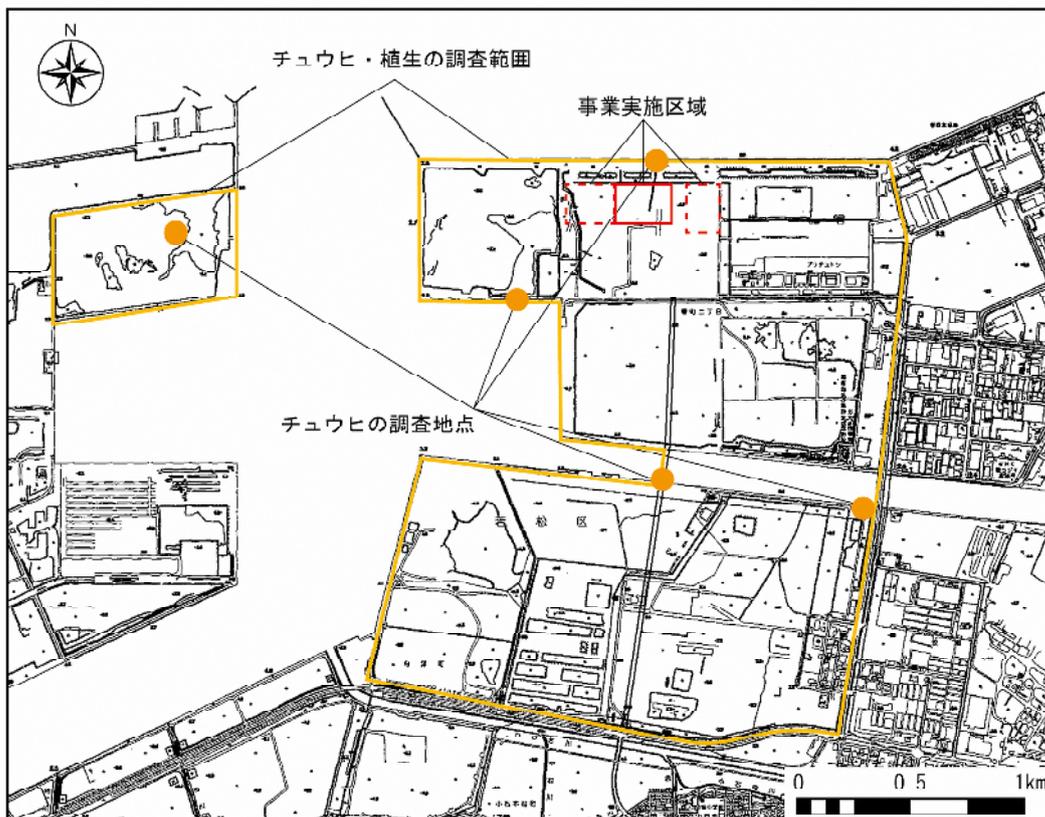
▼調査・予測・評価の手法(動物、植物、生態系)

環境影響評価の項目			影響要因の区分	調査、予測及び評価方法
環境要素の区分				
動物	陸生動物	重要な種及び注目すべき生息地	造成等の施工による一時的な影響	<p><調査方法>既存資料の収集・整理及び現地調査により事業実施区域及びその周辺の陸生生物の生息状況を把握します。</p> <p><予測方法>事業計画と重要な種の生態及び生息地の状況を踏まえ、分布または生息環境の改変の程度から、事例の引用または解析により環境影響を把握します。</p> <p><評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているかを評価します。</p>
			地形改変及び施設の使用	
	海生動物	海域に生息する動物	施設の稼働(温排水)	<p><調査方法>既存資料の収集・整理により海生動物の生息状況を把握します。</p> <p><予測方法>事業計画と重要な種の生態及び生息地の状況を踏まえ、分布または生息環境の改変の程度から、事例の引用または解析により環境影響を把握します。</p> <p><評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているかを評価します。</p>
植物	陸生植物	重要な種及び群落	造成等の施工による一時的な影響	<p><調査方法>既存資料の収集・整理及び現地調査により事業実施区域及びその周辺の植物相及び植生を把握します。</p> <p><予測方法>事業計画と重要な種及び群落の分布を踏まえ、分布または生育環境の改変の程度から、事例の引用または解析により環境影響を把握します。</p> <p><評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているかを評価します。</p>
			施設の使用(温排水)	
	海生植物	海域に生育する植物	施設の稼働(温排水)	<p><調査方法>既存資料の収集・整理により海生植物の生育状況を把握します。</p> <p><予測方法>事業計画と重要な種及び群落の分布を踏まえ、分布または生育環境の改変の程度から、事例の引用または解析により環境影響を把握します。</p> <p><評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているかを評価します。</p>
生態系		地域を特徴づける生態系(チュウヒを上位性注目種とした生態系)	造成等の施工による一時的な影響	<p><調査方法>既存資料の収集・整理、専門家へのヒアリング、現地調査により、生態系の上位性注目種であるチュウヒの生息状況及び生息環境の状況を把握します。</p> <p><予測方法>事業計画とチュウヒの生態及び生息地の状況を踏まえ、分布または生息環境の改変の程度から、事例の引用または解析により環境影響を把握します。</p> <p><評価方法>事業者が実行可能な範囲で環境保全についての配慮が適切になされているかを評価します。</p>
			地形改変及び施設の使用	



備考) 事業実施区域の破線範囲は、工事中の資材等の仮置き場です。

▲陸生動物・植物の現地調査範囲



備考) 事業実施区域の破線範囲は、工事中の資材等の仮置き場です。

▲生態系の現地調査範囲